

# えひめ 健康だより

2001年  
11月  
No. 5



急増する前立腺がん ～早期発見のための検診を～

第10回 全国結核フォーラム 開催

わたしの街から — 三間町保健福祉センター



財団法人 愛媛県総合保健協会

# 急増する前立腺がん

～早期発見のための検診を～

愛媛大学医学部 泌尿器学教室 助教授 西尾 俊治 先生

## 1. 前立腺とは

前立腺は男性の膀胱の出口にあり、尿道の始まりの部分を取り囲んだ状態で、正常であれば、クルミ大の大きさの臓器です。機能の1つは精液の一部を作っています。

## 2. 急増する前立腺癌 (図1)

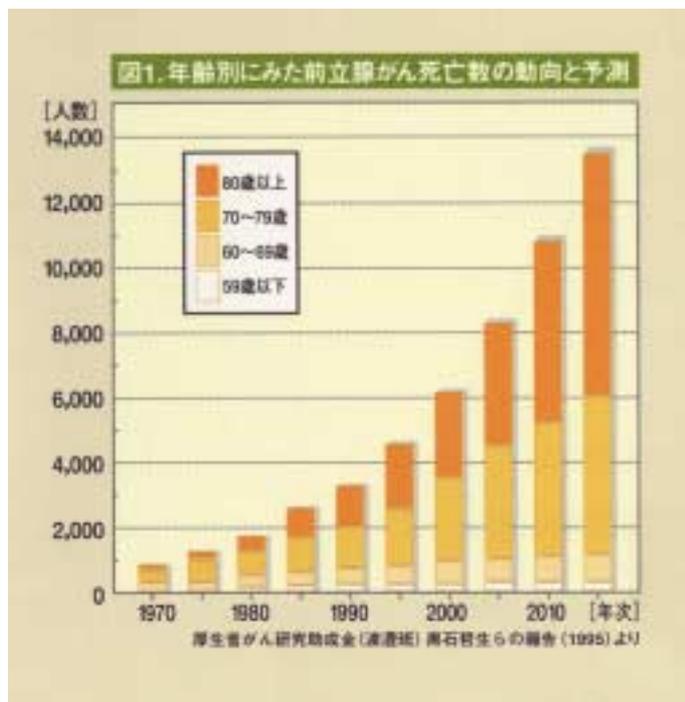
前立腺癌は日本において急激に増加しており、進行するまで症状の出にくいがんです。しかし、早期に発見し、治療することにより根治または癌の進行を抑えることが可能です。厚生省の人口動態統計と国勢調査人口に基づいて前立腺癌の死亡数の将来予測を算出した報告があります。これによると、近年の死亡率は急速に伸びており、2015年には14,000人に達すると推測されています。また、部位別癌死亡率の増加比を比較すると、近い将来、日本における癌死亡の中で最も増加することが予想されているのが前立腺癌です。1990年の実測値を1とした場合、2015年には約4倍になると予想されています。

### 要因として

その要因として、1つは生活習慣、食習慣の欧米化があげられます。

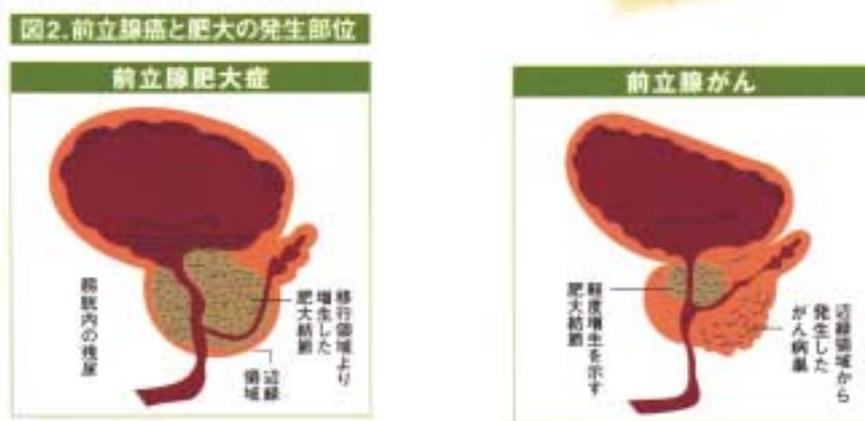
90%は60歳以上

わが国では前立腺癌患者の90%が60歳以上であるので高齢者における検診が必要です。



### 3. 自覚症状が現れにくい前立腺癌 (図2)

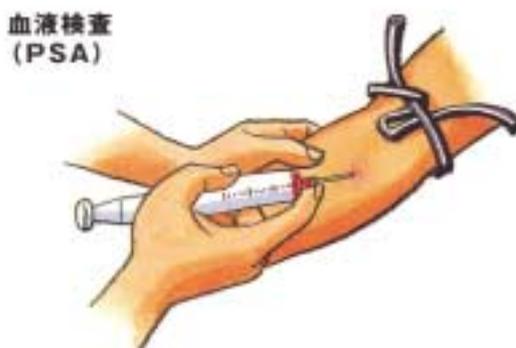
前立腺癌の初期にはほとんどの人が何の自覚症状もありません。癌が進行するにしたがって、尿の出が悪い、尿が終わるまでに時間がかかる、尿が残ったような感じがするなどの症状が出てきます。前立腺肥大症ではより尿道に近いところに発生するため、排尿の影響が早めに出ます。しかし、前立腺癌では前立腺の辺縁から発生するために初期には自覚症状を認めないのです(図2)。腰痛症状が出て初めて前立腺癌と診断されることもまれではありません。そのときにはすでに前立腺癌が骨に転移していることが多いのです。



### 4. 検診の手順

#### 血液検査 (前立腺特異抗原 PSA、prostate specific antigen)

PSAは前立腺で作られている蛋白質です。検査方法により若干の違いはありますが、血液内の正常値は4.0ng /ml以下です。癌か癌でないか非常に悩ましい値をGray Zoneといい、4.0 ~ 10.0ng /mlの範囲です。PSAが10ng /mlであれば陽性的中率は50%、100ng /mlを超えるとほぼ100%の陽性的中率です。しかし、PSA値のみで前立腺癌と最終診断してはならず、前立腺組織検査による病理検査によって確定診断されます。



メモ

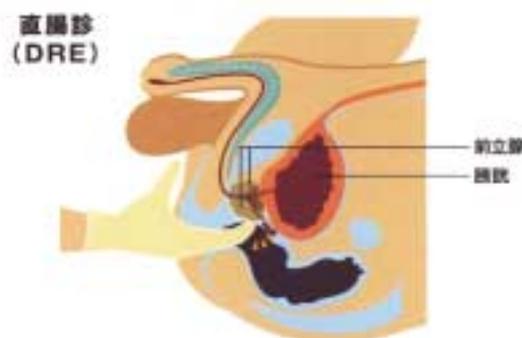
#### 癌ではどうして血液中のPSAが高くなるの？

正常もしくは前立腺肥大症では前立腺組織の外側の構造が壊れることなく保たれています。そのため、前立腺組織内でとどまり、血液中に漏れ出すことがないのですが、癌ではこの構造が破壊されるため血液中に漏れだし、血液中のPSAが高くなるのです。それで、PSAを測定することにより、90%前後の確率で癌か癌でないかがわかります。

## 直腸指診

前立腺の状態をまず知るための重要な検査が直腸指診です。直腸指診は患者さんの肛門から指を入れて、診察する方法です。仰向けで膝を曲げていただいた体位で検査します。前立腺は側面から見るとちょうど骨盤の恥骨の下側に位置しています。前立腺は直腸と接していますので、肛門から指を入れて直腸指診する事が出来ますから、前立腺の状態を診察することができます。

一般的に癌では、触る表面が凸凹で石のように硬く、進行した状態では、可動性がまったくなく、周りの組織とくっついた状態となります。



## 超音波検査

必要があれば直腸からの超音波検査をおこない癌の有無を見ます。



## 5. 1次検診ではPSAが最も適している

癌の中率は単独ではPSAが最も高い中率を示しており、簡便性からしても1次検診項目としてPSAが最も適しているといえます。しかし、診断ではPSA、直腸指診、経直腸的超音波検査のすべてが陽性の場合が、最も高い中率を示します。

## 6. 前立腺癌が疑われたら

### 前立腺組織検査

強く前立腺癌が示唆される場合、確定診断が必要です。確定診断は直接前立腺の組織を採取して、顕微鏡で調べる検査です。これは泌尿器科専門医で行ないます。方法は針を用いて組織を取りますが、直接直腸から採る方法と、肛門と陰囊の間の皮膚部（会陰部）から採る方法があります。

## 7. 前立腺癌がみつかったら

前立腺癌がどこまで広がっているのか（臨床病期）を調べるために、MRI、CT、骨シンチグラフィ、尿道造影などの画像検査を行います。泌尿器科専門医でおこないます。MRI、CTでは前立腺の周囲組織との関係をみます。骨シンチグラフィでは骨の転移の有無がわかります。

## 8. 前立腺癌でなかったら

癌でなければ、それで終わりではなく、やはり、定期的な検査は前立腺に関しては必要と考えます。とくに血液検査（PSA）による定期検査を受けましょう。

## 9. 検診で早期前立腺癌が発見される

日本のかなりの地区で前立腺癌の集団検診が開始され、前立腺癌のなかでも早期前立腺癌の発見率が高いことが証明されています。当然、早期癌は進行癌にくらべて生存率が高く、根治する割合も高くなります。

自覚症状の出にくい前立腺がん、そのためにも定期的な検診を受けることが重要となってきます。当協会でも、前立腺がん検診（PSA）をおこなっております。また、前立腺検診のリーフレットもご用意しておりますので、ご利用ください。詳しくは事業部（089-926-7400）までお問い合わせください。



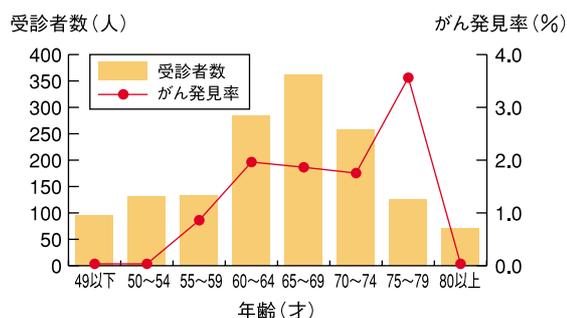
# 愛媛県における前立腺がん検診について

愛媛県総合保健協会では、平成12年度に20市町村で前立腺がん検診（PSA）をおこない、20名の前立腺がん患者を発見しました。老人健診を受診した5,539名の男性のうち、1,461名（26.4%）が受診し、特に60歳以上の方の受診率が高くなっています。

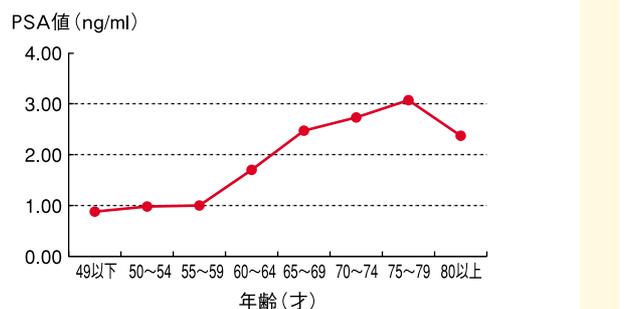
前立腺がんの発見率は1.37%で、加齢とともに上昇傾向を示し、PSAの平均値についても同様の傾向を示しています。PSAの値は4.0ng/ml以下を正常値とし、4.1～10.0ng/mlをグレーゾーン、10.1ng/ml以上を高度陽性者群としました。陽性者は全体で104名、そのうち65名が精密検査を受診しました。その結果、グレーゾーンでは6名、高度陽性者群では14名のがんを発見しました。がんと診断された20名のうち、12名が早期、2名が進行、6名が不明でした。

がんの発見率は、60歳以降で高率となることから、60歳以下でPSA検査を受けることが有効と考えられます。当協会では早期発見のために50歳からの受診を推奨しています。

年齢階級別受診者数と前立腺がん発見率



年齢別PSA平均値



# 第10回 全国結核フォーラム 開催

9月27日(木)

愛媛県県民文化会館  
サブホール

9月24日から30日の“結核予防週間”に合わせ、「第10回全国結核フォーラム」(主催 日本患者同盟・愛媛県患者同盟)が開催されました。結核は、かつて国民病といわれる時代がありましたが、生活水準の向上や医学・医療の進歩等により急速に改善されてきました。しかし、近年、学校や医療機関、老人関係施設等において集団感染が多発し、平成9年にはこれまで減少を続けていた新規発生患者数が増加に転じ、これにともない平成11年7月に「結核緊急事態宣言」が出されました。結核が「過去の病気」という認識と警戒心の薄れが大きな要因の一つだといわれています。こういった中で開かれた「第10回全国結核フォーラム」は、(財)結核予防会結核研究所長の森亨先生の特別講演をはじめ、パネルディスカッション、酸素吸入機器の実演などが行われ、県内外より約670名の方々の参加がありました。

特別講演は、「21世紀の結核対策の展望」と題して、20世紀からの結核が蔓延してきた歴史を振り返ると同時に、そこに取り残された結核の課題を21世紀へむけてどう改善していくか、また現在の結核の治療法や薬剤等を森先生がスライドで分かりやすくご説明され、参加者の皆さんも熱心に耳を傾けていました。

パネルディスカッションでは、「よみがえる結核 子供と高齢者から結核をなくすため」をテーマに、当協会の櫃本真津医監をコーディネーターに、国立療養所愛媛病院 西村一孝副院長、高知市保健所健康づくり担当主幹 豊田誠氏、松山市保健所地域保健課主幹 玉乃井敏夫氏、愛媛県患者同盟事務局長 佐伯強氏の4名のパネリストにより、結核の現状や患者の立場から見た結核についてディスカッションが行われました。平成11年に発生した高知市内の中学校での集団感染の状況を語られた豊田氏は、当時のツベルクリン反応判定時、こん棒のように腫れあがった腕を次々と差し出す生徒の光景が忘れられないと言われました。発病者31人、感染者153人という大

規模な集団感染で、2年間の対応のなかで改めて結核は忘れてはならない感染症であることを認識されたそうです。



このフォーラムが、結核は決して過去の病気ではなく、何の罪のない子供までも巻き込む恐ろしい感染症だということを知り、結核に対する警戒心を持つきっかけになればと思います。

## 結核予防週間 街頭無料検診

結核予防週間に合わせ、9月26、28、29日に街頭無料検診が行われました。中予地区はフジグラン松山グランドーム前にて胸部X線検査と喀痰検査を実施し、112名の方々が受診されました。東予地区はフジグラン新居浜で34名、南予地区はフジショッピングスクエア北宇和島店で29名の方が胸部X線検査を受診されました。



# わたしの街から

三間町保健福祉センター

保健婦 安岡 千恵子 さん



J R宇和島駅より北東へ7.5 Km、北宇和郡の西部に位置し、緑の沃野が一望に開けたところが三間町です。素朴な風景に、春のチューリップ、夏のポーチュラカ、秋のコスモス、冬の水仙と、四季折々の花が彩りを添え、心をなごませてくれる町です。人口は約6,900人、高齢化率は30.52%と、全国平均を大きく上まわっています。

平成12年1月に「安らぎと健康の町づくり」の拠点として、保健福祉センターがオープンしました。

センターには、保健福祉課、在宅介護支援センター、社会福祉協議会、デイサービスセンターを配置し、保健及び福祉の連携をとり、安心して子どもを産み育てることのできるよう、又、住民の健康保持と高齢者の寝たきり予防に努め、保健活動において、いつまでも健康で文化的な生活を送ることの出来る安らぎの町づくりを目標としています。

健診事業においては、健診希望調査をとり、電算化による健康管理システムにより、事前に健診案内や問診表を送付しています。受付問診の簡略化や健康度評価事業を基本健診時に行い、生活の見直しの目標を決めています。

健診終了後1ヶ月を目処に、健診結果説明会を行政区の集会所等で実施し、結果の説明と健診時に話し合っていた目標について、実践状況の確認をしています。8割の方に、結果を説明して手渡ししています。基本健診当日に心電図異常のため精密検査の必要な方や希望された方に、早期に健



診結果を出していただき、早期受診にむすびつけています。それにより健診結果説明会時にはその方の精密検査結果がわかります。

基本健診の結果について、高血圧、高脂血症、糖尿病等と診断される方が相変わらずあります。食生活の改善の必要な方には栄養調査表に記入していただき、後日栄養士による食生活相談を受けます。必要な方には保健婦と同伴訪問をします。また、行政区単位の栄養教室やグループ、男性の栄養教室と食生活を中心に学習しています。

町民祭には、リハビリ教室の作品展示をきっかけに、保健活動の展示へと発展しました。

今年度は、「嗜好品を見直そう!」というテーマで酒やジュースの糖分展示や体験コーナーを設けて、自分の体を知る機会としました。「今年は何をしているの?」と興味をもっていただきます。

脳卒中の発症もまだまだ多く、保健婦による健康学級には、「血圧を知る」というテーマで味覚テストや、尿中の塩分など自分自身を知る機会となるよう、又、わかりやすい学級になるよう工夫しています。

保健センター開設により、「のびのび体操会」を継続的に実施することができるようになりました。また介護予防事業や、総合健診の実施等、保健センターを拠点にして、新たな取り組みをすることができます。住民がいつまでも健康で文化的生活を送ることが出来るよう、健康づくりのお手伝いをしたいと思います。



三間町保健福祉センター



財団  
法人

愛媛県総合保健協会

<http://www.eghca.or.jp>

---

■ 総務部	松山市味酒町1丁目10-5 soumu@eghca.or.jp	(089)941-7882
■ 事業部	松山市宮西1丁目5-11 zigyou3@eghca.or.jp(業務推進課・健診業務課) zigyou2@eghca.or.jp(情報統計課)	(089)926-7400
■ 健診部	松山市宮田町6-6 kensin1@eghca.or.jp(放射線課) kensin2@eghca.or.jp(病理検査課) kensin3@eghca.or.jp(臨床検査課・看護課)	(089)941-7905
■ 環境部	松山市味酒町1丁目10-5 kankyou@eghca.or.jp	(089)941-7977
■ 松山診療所	松山市味酒町1丁目10-5	(089)941-2783
■ 東予支所	新居浜市一宮町1丁目14-18 touyo@eghca.or.jp	(0897)32-5428
■ 南予支所	宇和島市鶴島町3-1 nanyo@eghca.or.jp	(0895)22-3128